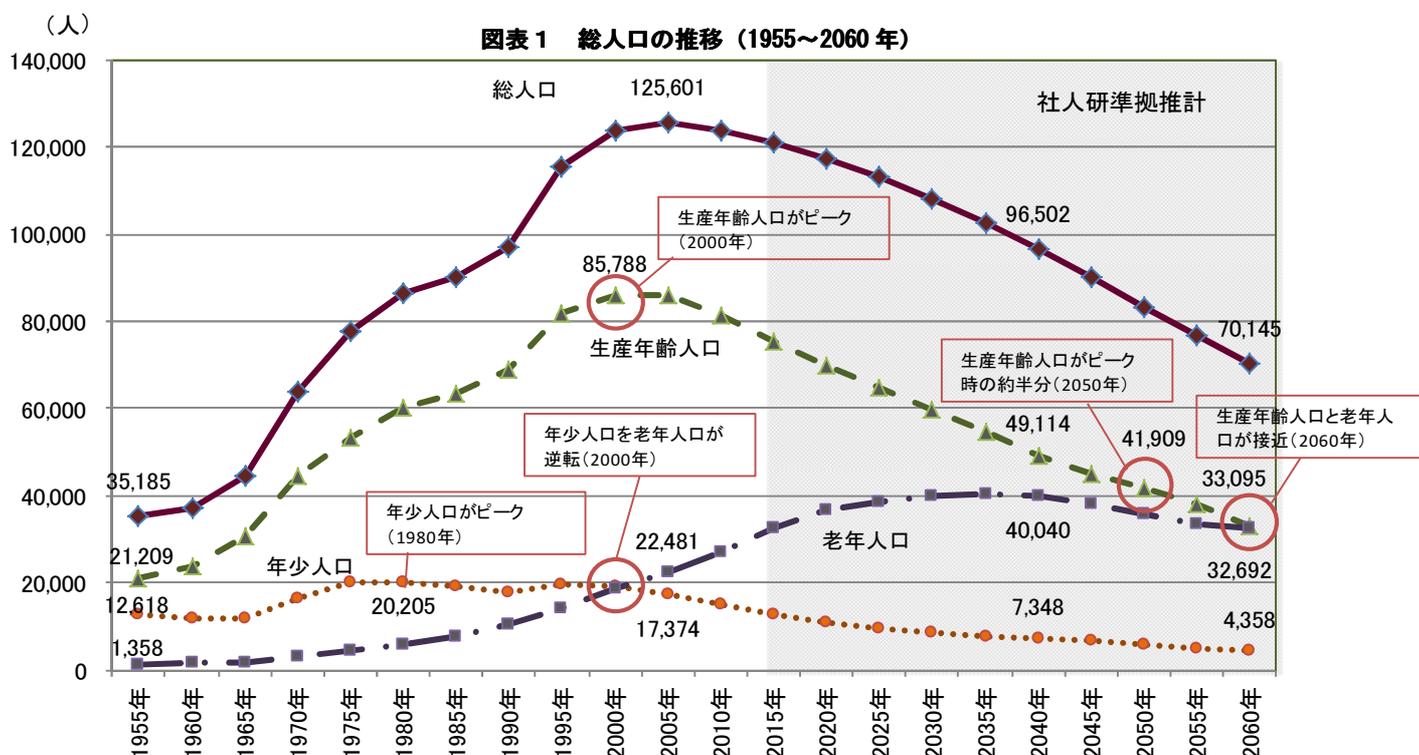


江別市人口ビジョン中間報告 【概要】

江別市人口ビジョンは江別市における人口の現状を分析し、
今後、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです

人口の現状分析

総人口の推移について



(出典) 2010年までは国勢調査(合併も考慮)、2015年以降は「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)に準拠した推計

江別市の総人口は、国勢調査ベースで2005年(平成17年)の125,601人をピークに減少傾向に入っています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年(平成52年)時点で96,502人となり、ピーク時の約76.8%まで減少すると推計されています。

高齢化率の推移について

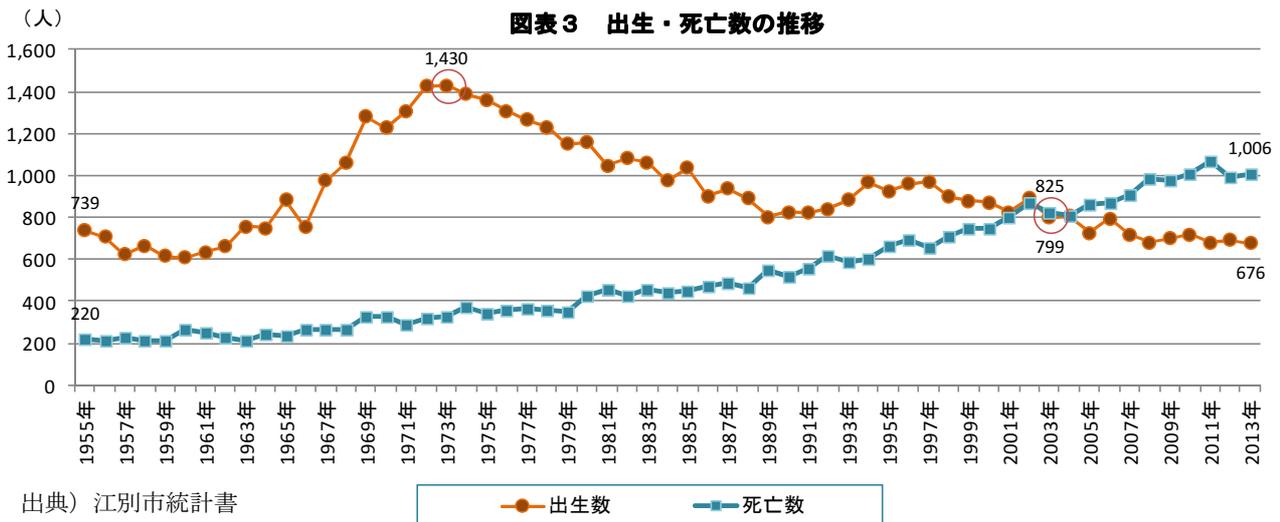
図表2 比較対象自治体における高齢化率の変化

【2010年(国調)】		【2040年(推計)】		
自治体名	高齢化率	自治体名	高齢化率	伸び率
千歳市	17.4%	千歳市	31.5%	81.2%
札幌市	20.5%	恵庭市	35.8%	72.3%
恵庭市	20.8%	石狩市	39.7%	71.5%
江別市	21.8%	札幌市	39.9%	95.1%
北広島市	22.4%	北海道	40.7%	65.2%
石狩市	23.1%	江別市	41.5%	90.1%
北海道	24.7%	岩見沢市	42.9%	54.6%
北見市	25.4%	北見市	43.5%	71.7%
岩見沢市	27.8%	北広島市	44.0%	95.9%
栗山町	32.7%	栗山町	47.3%	44.6%

江別市の高齢化率は2010年(平成22年)では、全道平均(24.7%)よりも低い高齢化率(21.8%)を示しています。しかし、2040年(平成52年)になると高齢化率が(41.5%)に上昇(伸び率90.1%)し、北海道(40.7%)を上回る見込みです。比較対象とした自治体で同様に高齢化率の伸び率90%を超える自治体は、札幌市、北広島市です。3市は共通して合計特殊出生率が1.10を下回る水準であり、出生率の低さにより高齢化率が影響するものと考えられます。

人口の自然増減(出生死亡)について

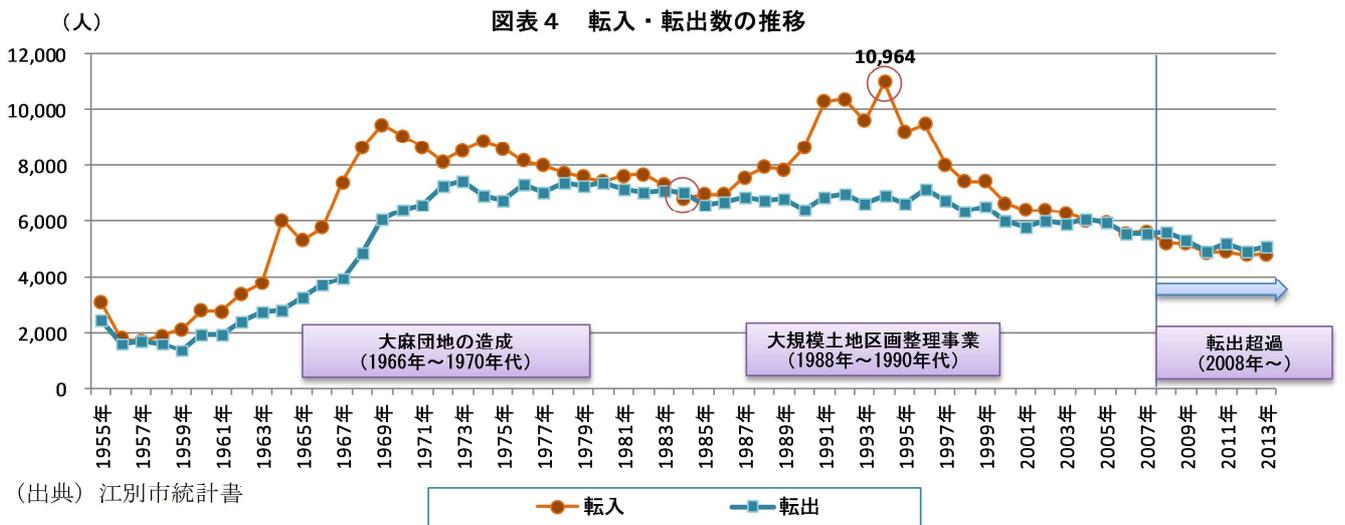
図表3 出生・死亡数の推移



出典) 江別市統計書

江別市の人口の自然増減については、出生数が1973年(昭和48年)にピークを迎え、以降は減少傾向で推移しています。2002年(平成14年)までは出生が死亡を上回る「自然増」の状況でしたが、それ以降は「自然減」に転じています。

人口の社会増減（転出転入）



江別市の人口の社会増減について、転入数に関しては、大塚団地の造成に係るもの（1960年代後半～1970年代前半）と、大規模土地区画整理事業に係るもの（1988年～1990年代後半）の2つの山があり、転入のピークは1994年（平成6年）となっています。また、2008年（平成20年）からは転出入の均衡に近い水準ではあるものの、転出超過となる状況が続いています。

市全体の転入者・転出者の総数（2013） (人)

	転入	転出	差引
総数	4,643	4,906	△263

札幌市からの転入者・札幌市への転出者（2013） (人)

	転入		転出	
総数	1,689	100.0%	2,202	100.0%
0～4歳	179	10.6%	80	3.6%
5～9歳	66	3.9%	46	2.1%
10～14歳	17	1.0%	25	1.1%
15～19歳	47	2.8%	94	4.3%
20～24歳	197	11.7%	470	21.3%
25～29歳	288	17.1%	430	19.5%
30～34歳	272	16.1%	258	11.7%
35～39歳	185	11.0%	185	8.4%
40～44歳	127	7.5%	124	5.6%
45～49歳	67	4.0%	89	4.0%
50～54歳	44	2.6%	63	2.9%
55～59歳	47	2.8%	74	3.4%
60～64歳	42	2.5%	69	3.1%
65～69歳	28	1.7%	41	1.9%
70～74歳	17	1.0%	25	1.1%
75～79歳	13	0.8%	34	1.5%
80～84歳	23	1.4%	52	2.4%
85～89歳	18	1.1%	26	1.2%
90歳以上	12	0.7%	17	0.8%

近隣市町村との人口移動の状況 （2013年（平成25年））

近隣市町村との人口移動の状況を見ると、札幌市からの転入者が1,689人、札幌市への転出が2,202人と、最も多くなっています。

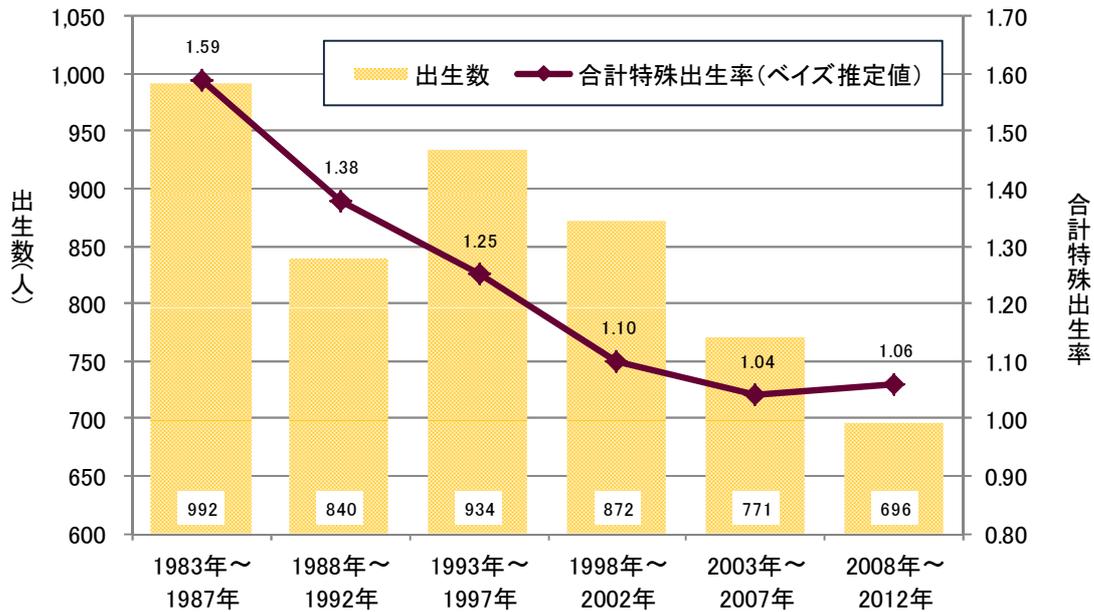
また、岩見沢市からの転入が203名、岩見沢市への転出が127名となっています。

転入・転出者ともに多い札幌市の状況を年齢別にみると、転入者では25～29歳、30～34歳の割合が高く、転出者では20～24歳、25～29歳の割合が高いことが分かります。

(出典) 住民基本台帳人口移動報告

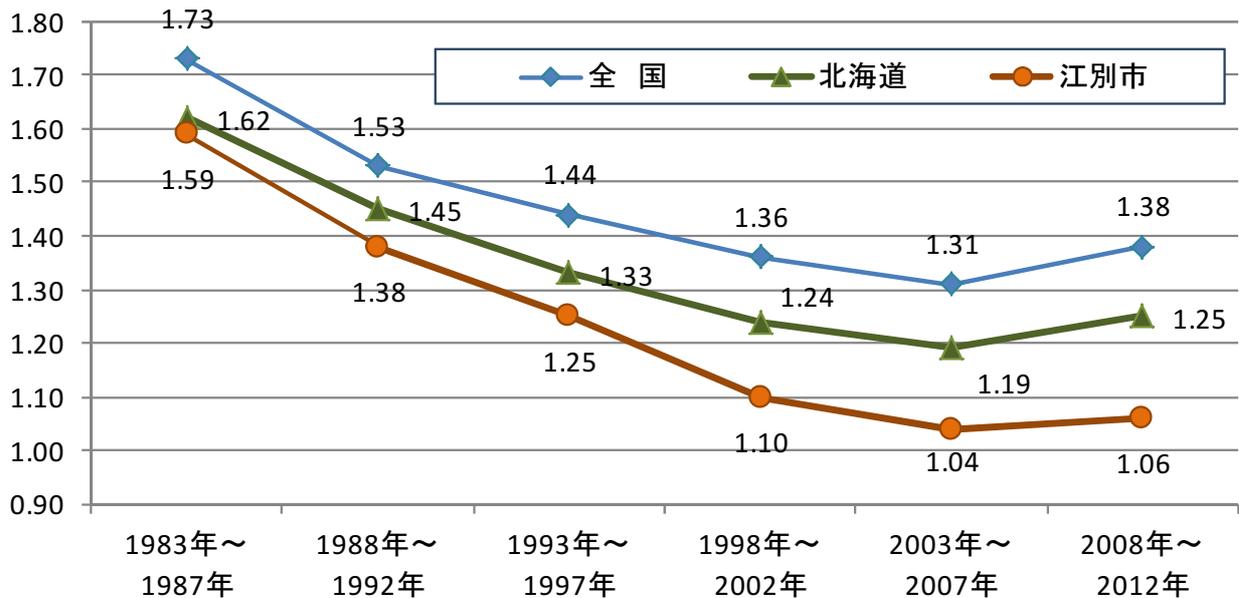
合計特殊出生率と出生数の推移について

図表5 合計特殊出生率と出生数の推移



江別市の合計特殊出生率について、5年ごとの平均により推移を見ると、1983年～1987年の1.59から低下が続き、2003年～2007年の1.04を底に、2008年～2012年は1.06に上昇しています。1.06という値は全国の1.38、北海道の1.25と比べて低い値となっています。また、出生率は上昇しているものの、出生数の平均は2003年～2007年の771人から696人へと減少しています。

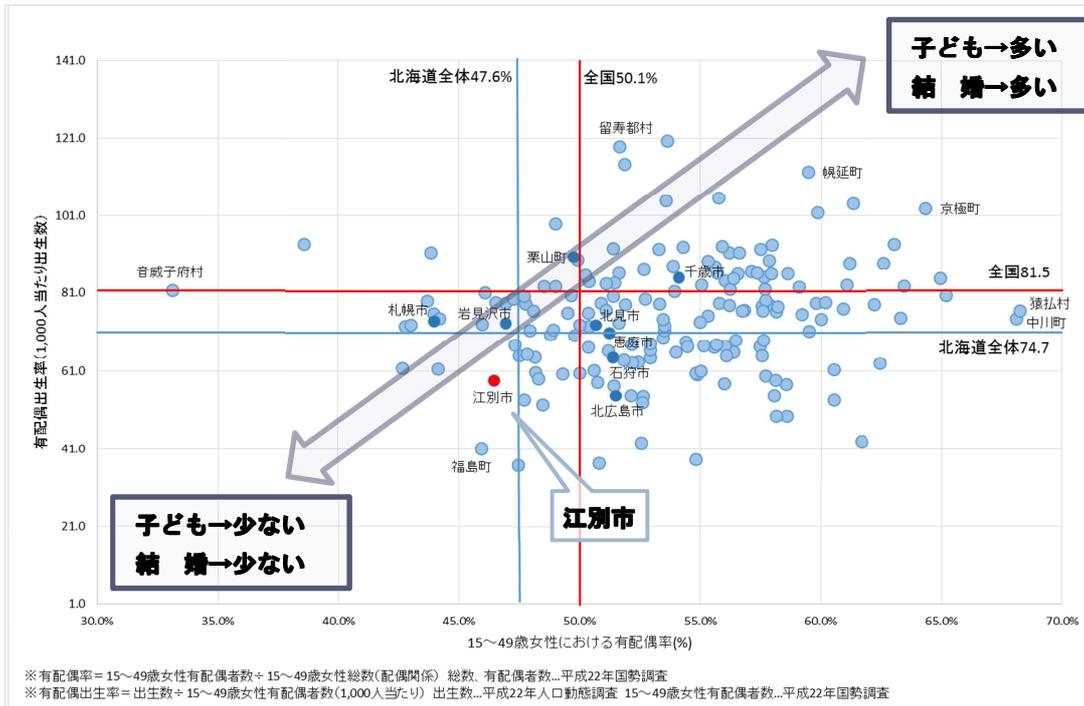
図表6 合計特殊出生率(ベイズ推定値)の比較(全国、全道)



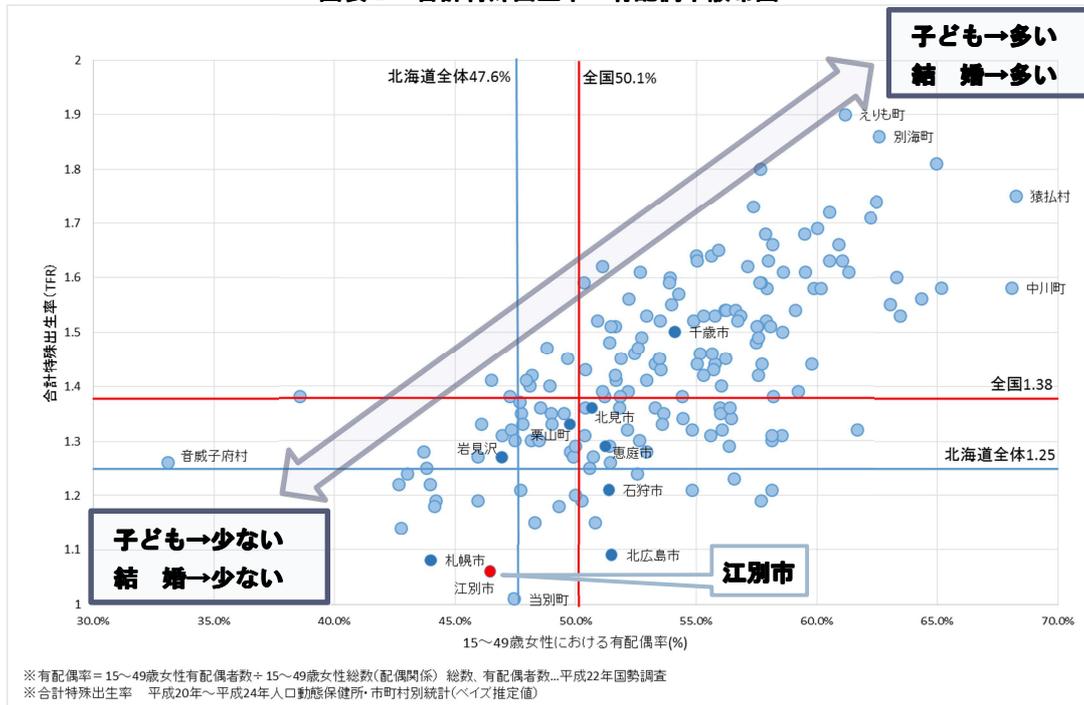
(出典) 人口動態保健所・市区町村別統計より作成

有配偶率と合計特殊出生率、有配偶出生率について

図表7 有配偶率・有配偶出生率散布図



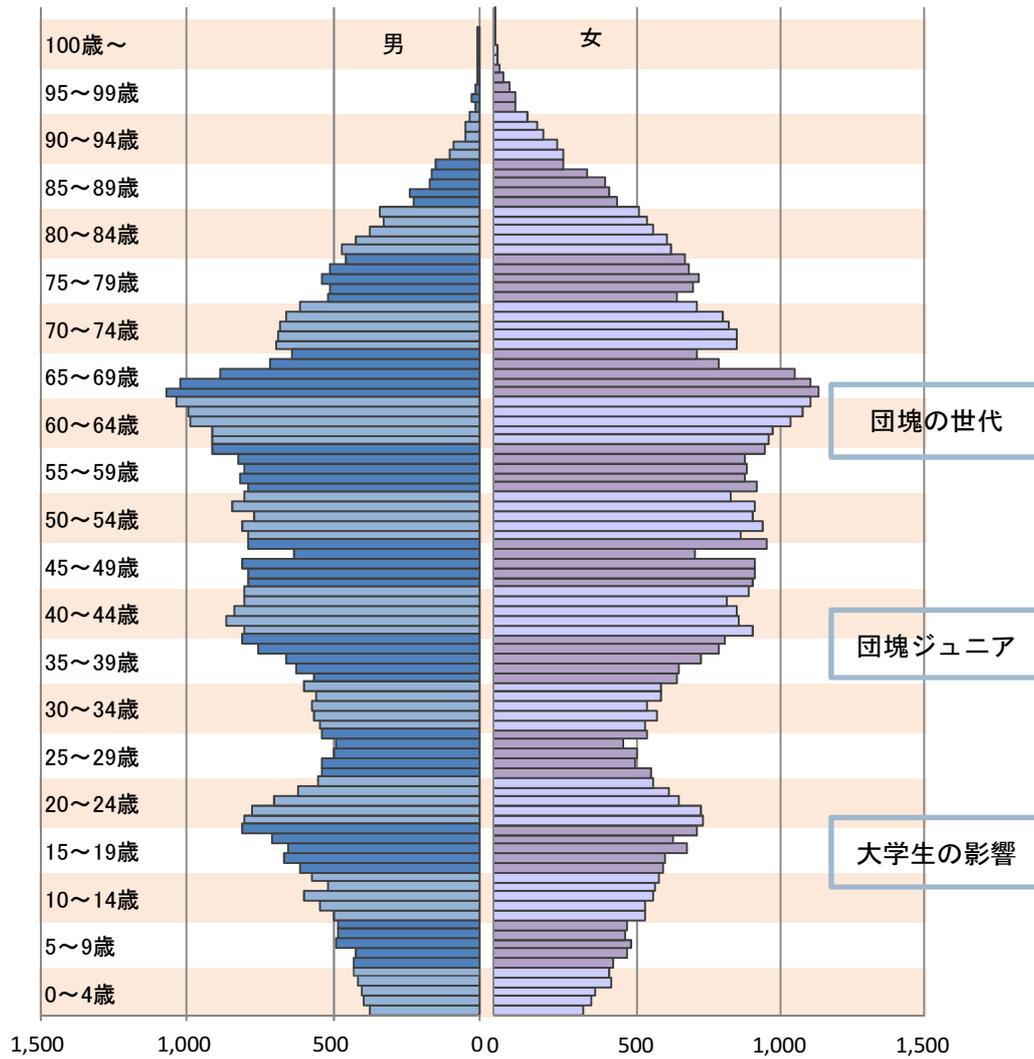
図表8 合計特殊出生率・有配偶率散布図



有配偶率、有配偶出生率、合計特殊出生率の関連について、【図表7】によると、江別市は有配偶率、有配偶出生率が全道の自治体と比べて低い値となっています。また、比較対象の自治体で有配偶率、有配偶出生率がともに低いのは江別市のみとなっています。次に【図表8】では有配偶率と合計特殊出生率の相関がみられ、江別市では相対的に結婚する女性が少なく、また夫婦で設ける子どもの数が少ないことが考えられます。

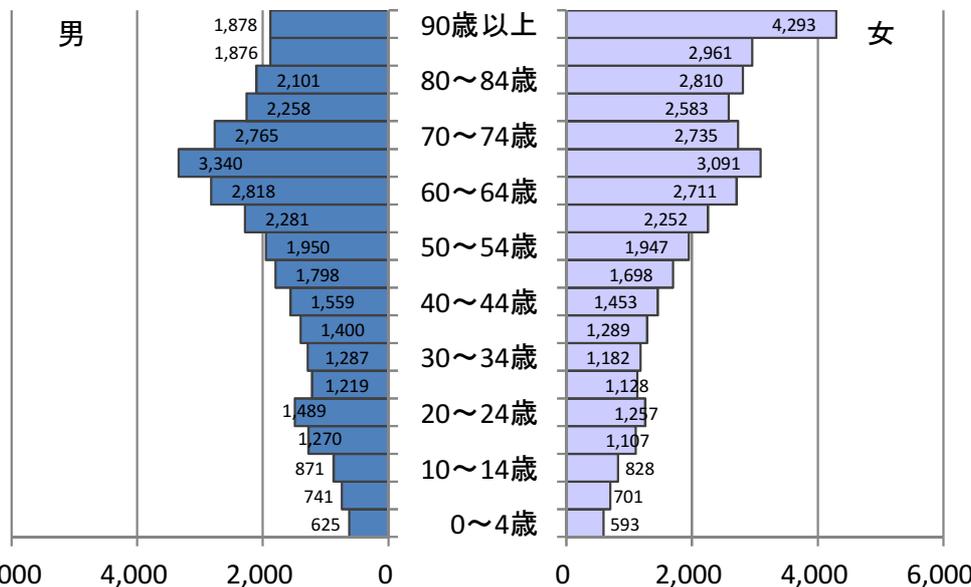
人口構造の変化

図表9 2014年(平成26年)の人口ピラミッド



(出典) 平成26年10月1日現在住民基本台帳 (2015年江別市統計書)

図表10 2060年(平成72年)の人口ピラミッド



(出典) 「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)に基づき作成